

ヴェーダ

V E D A

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは地域の中核病院として皆さんの健康を守るために、質の高い医療を提供し共に歩みます。

基本方針

- ・患者さんの人権と権利の尊重
- ・がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- ・地域の医療機関、保健福祉施設との連携強化
- ・職員の働きやすい職場づくり

「第25回 地域医療連携推進事業運営委員会」、 「第6回 南加賀地区地域医療連携講演会」開催される

主催：国民健康保険 小松市民病院 共催：小松市医師会



11月5日(木)ホテルサンルート小松において、「第25回地域医療連携推進事業運営委員会」と「第6回南加賀地区地域医療連携講演会」が開催されました。



運営委員会では、開放型病床の利用率や高額医療機器の利用状況などについて説明を行い、南加賀地区の病院・診療所と小松市民病院が連携を深め、患者さんによりよい医療サービスを提供するための意見を出し合いました。また、講演会では「南加賀地区地域医療の発展を目指して」と題して、当院の医師3人が専門分野について説明を行いました。上田幸生診療部長は「循環器疾患への取り組みについて」、吉本幸子内科担当部長は「南加賀糖尿病連携パスについて」、塚山正市外科医長は「鏡視下手術について」講演を行いました。それぞれの医師は当院での新たな取り組みや実績の報告、さらに今後の課題や方向性を述べました。



第1回 緩和ケア病棟ボランティア養成講座

平成21年11月20日(金)当院において、第1回緩和ケア病棟ボランティア養成講座を開催し、9人のご参加をいただきました。

講義と病棟見学を交えたプログラムで、がん医療について、緩和ケアやチームアプローチについて、また患者さんやご家族とのコミュニケーションの取り方について理解を深めていただきました。

緩和ケア病棟では、医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなどの医療スタッフだけではなく、ボランティアも患者さんとご家族を支える大切なチームの一員です。

緩和ケア病棟ボランティア養成講座を受講して頂いたみなさんには、今後、緩和ケア病棟での患者さんやご家族の話し相手、病棟行事のお手伝いや、それぞれの特技を活かした活動を行って頂く予定です。

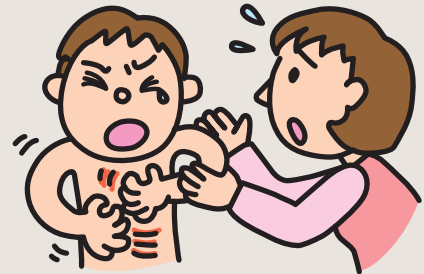
緩和ケア病棟では、引き続きボランティアの募集を行っています。上記以外にも絵画や写真の展示、楽器や歌の演奏などの活動を提供して下さるボランティアも受け入れています。

緩和ケア病棟ボランティアに関心のある方はぜひ、がん相談支援センターまでお問い合わせください。



じんましん
蕁麻疹についてじんましん
■ 蕁麻疹の7割は特発性蕁麻疹 ■

蕁麻疹は皮膚の一過性の浮腫(むくみ)で、その病体形成には皮膚のなかにある肥満細胞がなんらかの信号を受けて活性化されることによりヒスタミンという物質を出し主要な役割を果たしていることが明らかになっています。蕁麻疹発症のスタートラインとなる肥満細胞の活性化については、食物などによる免疫反応の即時型アレルギー反応がよく知られています。しかし、実際にはこの反応による蕁麻疹は全体の3%程度であり、90%以上はヒスタミンが関与するものの原因は不明です。このことから3才迄の小児以外は食べ物のアレルギー検査をしてもほとんど無駄と考えられます。一口に蕁麻疹といっても、実に様々な蕁麻疹があるため、日本皮膚科学会のガイドラインでは、蕁麻疹を3つのカテゴリ-13病型に分類しています(参考1)。この中で、日常診療で最も遭遇する頻度が高いのが特発性蕁麻疹で、蕁麻疹患者の7割を占めるといわれています。



蕁麻疹・血管性浮腫の治療ガイドライン

参考1 蕁麻疹の病型分類

I. 特発性の蕁麻疹¹⁾

1. 急性蕁麻疹(発症して1ヵ月以内のもの)
2. 慢性蕁麻疹(1ヵ月以上持続するもの)²⁾

II. 特定刺激ないし負荷により

皮疹を誘発することができる蕁麻疹

3. 外来抗原³⁾によるアレルギー性の蕁麻疹(4を除く)
4. 食物依存性運動誘発アナフィラキシー(における蕁麻疹)
5. 外来物質による非アレルギー性の蕁麻疹(6を除く)
6. 不耐性(イントレランス)による蕁麻疹

7. 物理性蕁麻疹

- (機械性、寒冷、日光、温熱、遅延性圧、水)
8. コリン性蕁麻疹
 9. 接触性蕁麻疹

III. 特殊な蕁麻疹または蕁麻疹類似疾患

10. 血管性浮腫
11. 蕁麻疹様血管炎
12. 振動蕁麻疹(振動血管性浮腫)
13. 色素性蕁麻疹(肥満細胞症)のダリ工徴候

1) 感染、食物、疲労、特定の薬剤、日内変動などが誘因になることがある。

2) IgE、またはIgE受容体に対する自己抗体が検出される例がある(自己免疫性蕁麻疹)。このような症例ではシクロスポリンの内服が有効なことがある。

3) 食物(果物、甲殻類、鶏卵、牛乳、小麦など)、薬剤(抗生物質、消炎鎮痛薬など)、環境物質(ラテックス蛋白など)、感染性微生物など。

蕁麻疹・血管性浮腫の治療ガイドライン. 日皮会誌115(5):703-715,2005(一部改変)

■ 蕁麻疹の診断は問診が重要なポイント ■

皮膚病は問診をしなくても診るだけで、もしくは顕微鏡による検査でほとんど診断できますが、蕁麻疹は病院へ受診する頃には消退していることが多く、問診で診断する唯一の皮膚病です。蕁麻疹か否かは、問診で「それぞれの浮腫性紅斑が通常1日以内にあとを残さず、完全に消退すること」

を聞き出すことによって判断します。逆に特別な病態を除いて1日以上経っても消えずに2～3日続いている場合は、蕁麻疹ではなく、他の疾患を疑います。また食べ物、薬剤、運動等の具体的な誘因が疑われる時には、必要に応じて誘発試験を行うがアナフィラキシーショックを起こす危険性があるため慎重に行う必要があります。

■治療のポイント■

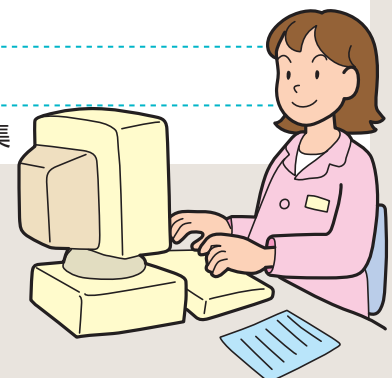
主に第1から第3世代迄の抗ヒスタミン剤を用います。特殊な蕁麻疹には副腎皮質ステロイド剤、シクロスポリン等の免疫抑制剤、その他もろもろの補助薬が使用されることもあります。湿疹とは異なり内服治療がほぼ100%を占めます。原因が分かれば除去することが大切ですが前述のごとくほとんど出来ない状態です。内服薬は効果重視型と眠気軽減型のものがありますが1回の受診ではその人に合う薬はなかなか見つからないため、効果がないと思ったら他院へ行くのではなく最初の病院、診療所へ通院し、症状にあう薬を見つけていくことが大切です(ドクターショッピングは治癒を遅らせます)。

病院探検 院内感染予防対策委員会

患者さんに安全な医療を提供するために医療事故防止とともに、医療関連の感染を防止するために取り組んでいます。院内感染防止対策として患者間の相互感染の予防と医療従事者の安全を守るために以下の活動をしています。

1. 院内感染予防対策を検討するため、各部門の責任者が参加し委員会を毎月開催
2. 定期的に院内感染対策チームによる院内の巡回と必要時の指導
3. 巡回した結果やトピックスをICTニュースで院内に周知
4. 院内の感染症の発生状況を定期的に調査し検討するほか、抗生物質の適正な使用の推進
5. 職員に対する院内感染防止研修会を年2回開催
6. 院内感染予防に関するマニュアルを作成、定期的な見直し
7. 各部署から出された院内感染防止に関する意見を検討
8. インターネット、専門雑誌、学会等からの院内感染に関する情報収集

現在はこのほか新型インフルエンザ予防対策についてその都度検討しています。



病院探検

デイケアセンターりんず

小松市民病院デイケアセンターりんずは、精神障害を有する患者さんを対象として、月曜から金曜まで毎日開いています。

精神科デイケアは精神障害者のリハビリテーションのひとつで、生活能力の回復・向上、症状の再発・再入院の防止、社会復帰の促進、自立生活と社会参加促進のための援助をします。

個人やグループでのプログラムを行っており、同じ障害を持った仲間と活動することによって、対人関係の改善や生活技術を高めることができます。当院デイケアが重視している点は、単に病気の管理ということに留まらず、病気を持っている『生活者』として捉え、生活全体を視野に入れたケアを行うことです。そのために、家族や関係諸機関と連携を図り、支援を進めています。スタッフは、医師1人(専任)、看護師1人、精神保健福祉士1人です。役割としては、看護師は病気の相談や生活全般の相談、精神保健福祉士は経済的な相談や社会資源の利用等の相談、医師は医学的な相談を担当しています。

当院デイケアの役割

- 1) 安心していただける居場所となること
- 2) 一人暮らしを続けられるように援助すること
- 3) 病気や障害を理解し、その対処方法を身に付けられるよう促すこと
- 4) 『働きたい』という希望に添えるように援助すること

デイケアの週間プログラム

	月 曜	火 曜	水 曜	木 曜	金 曜
午前のプログラム	DVD鑑賞	ゲーム	ミーティング	買い物	調理
午後のプログラム	スポーツ	創作活動	音楽活動	お菓子作り	自由活動

週間プログラムの他に、月1回のカラオケ外出や季節事に外出レクリエーションを行っています。今年度は外出レクリエーションとして、芦城公園お花見・バーベキュー大会・いしかわ動物園見学・山中温泉周辺紅葉狩りに出掛けました。

12月には、精神科病棟クリスマス会にコーラスグループの発表を行う予定です。



調理で作った春巻き



お菓子作り クッキー



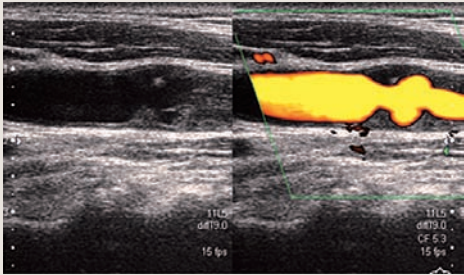
創作活動 切り絵作品1



創作活動 切り絵作品2

当院で取り組んでいる糖尿病合併症検査

糖尿病になると動脈硬化で血管が狭くなり、脳梗塞、心筋梗塞など重大な合併症の危険性が高くなります。また糖分が神経に付着したり、血管が狭くなることで色々な神経障害が出る危険性も高くなります。



頸動脈超音波検査

超音波で頸動脈を詳しく見ることで、現在の動脈硬化の程度を診断します。

検査時間は20分程度で、痛みもなくベッドに寝ているだけで診断することができます。

血液の流れているところに色を付けたりすることで動脈硬化の程度や、血液の流れも詳しく調べることができます。

ABI検査

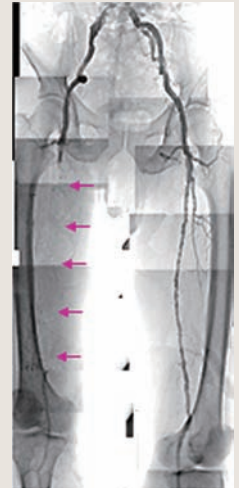
動脈硬化が進行し血管が狭くなったり詰まったりすると、歩くと足が痛くなったり、壊死を起したりします。

手足の血圧を同時に測定することで、血管の硬さや狭くなった血管を診断することができます。

検査時間は10分程度、痛みもなくベッドに寝ているだけで診断することができます。



壊死を起した足



血管造影で調べた、つまった足の血管

負荷心電図検査

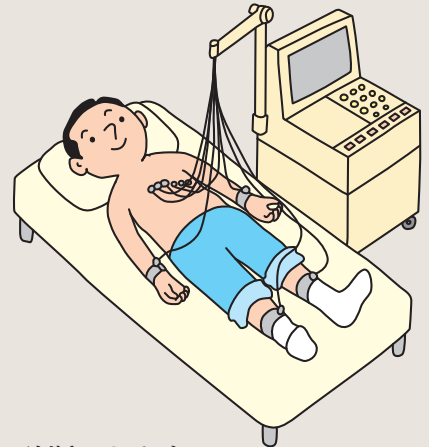
踏み台昇降をし心臓に負担をかけ、心電図検査することで、心臓の冠動脈の状態を調べることができ、狭心症や心筋梗塞の危険性を調べます。

検査時間は10分程度です。

神経伝導速度検査

糖分が神経に付着したり、動脈硬化で神経に血液が不足すると、神経が傷害され、手足のしびれ等の神経障害が出てきます。

手足に電気を流し筋肉の反応をみることで神経の働きを検査します。ピリピリとした痛みを感じますが、検査時間は20分程度です。



R-Rインターバル検査

心電図より自律神経の働きを調べます。

ベッドに寝ていただいて、安静状態の心電図を10分位記録することで診断できます。

当院ではこのような検査も行い、血液だけでは判らない、糖尿病の合併症を検査しています。

『クリティカルパスと地域連携パス』 という言葉をご存知ですか？

1 クリティカルパスとは？

まず、このクリティカルパスの言葉の説明をします。

手術や治療のため、あるいは検査のために入院する人にとって、入院中の予定などが予めわかると非常にありがたいものです。そのような日程表を、専門的にクリティカルパス(クリニカルパスともいいます、以下パス)と呼んでいます。標準的なおおよその入院中の日程が記載されています。これは旅行前にいただく日程表のようなものと考えていいと思います。もちろん人間一人一人の身体の特徴や、病状などは異なるため、必ずそのパスどおりにならないこともしばしばあることも事実ですが、だいたいの目安がわかるため非常に参考になります。

近年ほとんどの病院においてはこのパスを利用しています。当初は医療者のみで使用していましたが、最近は患者さんに対しても患者さん用パスをお渡しすることができることになりました。

パスは患者さんにとっても便利で、その利点として

1. 医療の面で余分な検査や主治医の指示忘れなどが避けられる。
2. 無駄な入院期間を過ごさないで済む。
3. 標準的な入院費の概算が事前にわかる
4. 予定がわかり安心して検査や手術が受けられる。
5. 疑問があれば主治医や看護師に質問しやすい。
6. 自分も検査や手術のチームの一員になったように感じ、退院の目標に前向きに取り組める。
7. いくつかの病院間のパスを比較でき、自分で施設を選択することも可能となる。

などが挙げられます。

当院では約80種のパスを入院中の患者さんに現在使用しています。

2 地域連携パスとは？

つぎに、地域連携パスのお話をします。

これまでは入院患者さんに主に使用されていたパスも、最近はいろいろな形式のものが作成されるようになってきました。その典型例が地域連携パス(地域連携クリティカルパス)です。患者さんの主に退院後などに、かかりつけ(一般診療所など)の先生と連携し、外来で使用してゆくパスです。

近年、一つの医療機関で全て治療を行うのではなく地域全体で、機能や役割を分担していこうという考え方があります。すなわち、医療機関にはそれぞれの役割があり、急性期病院は手術、急性期治療や専門的診療を担当し、回復期リハビリ病院は社会復帰に向けた診療、一般のかかりつけ医は経過観察や連携内容に沿った治療を実際に行うという具合です。

患者さんは双方の施設の診療を受けることになります。当初患者さんは急性期病院から離れることに不安が多いわけですが、実際には、定期的にあるいは連携の内容に基づき問題点が発生すればすぐ



また、急性期病院でも診察を受けることができ、決して急性期病院と縁が切れるわけではないのです。最近はこのような考え方から、各地域にいろいろな連携のネットワークが生まれています。

そのためには病院と診療所の施設間の連携が必要となります。その連携をスムーズに図るため病院、診療所など複数の医療機関が、患者さんの治療や経過観察を行う上での一貫した診療計画があると便利です。そのような目的で作成された計画書を地域連携パスといいます。

この地域連携パスは、入院時のパスと異なり、かなり長期間にわたって設定したスケジュール表です。連携のネットワークには必需品のようなものです。

当院でも現在4つの地域連携パスにて地域の病院、診療所などとネットワークを形成しています。

その4つの地域連携パスは、主要な成人病に対するものです。心臓病、脳卒中、がん(現在は肺がんのみ)、糖尿病の患者さんに使用されています。

それぞれのパスはつぎにお示しします。

1. 「心筋梗塞・狭心症の冠動脈形成術施行後の連携パス」

現在20人を越える患者さんに利用されています。

2. 「加賀脳卒中地域連携パス」

現在10人前後の患者さんに利用されています。

3. 「I期肺がん術後長期連携パス」

現在16人の患者さんに利用されています。

4. 「南加賀糖尿病地域連携パス」

現在60人の患者さんに利用されています。

それぞれまだ取り組みが始まったばかりですが、今後、地域の医療連携には必ず役立つものに発展していくと期待されています。

スマイル委員会 コント出前講座のご案内

「笑い」は免疫力を高めることを御存じですか？

スマイル委員会では、楽しい雰囲気の中で病気についての知識を知っていただき、大いに笑っていただきたいと思います。多くの「笑い」を皆様のもとへ届けたいと出前講座を行っていますので、たくさんの申込みをお待ちしています。

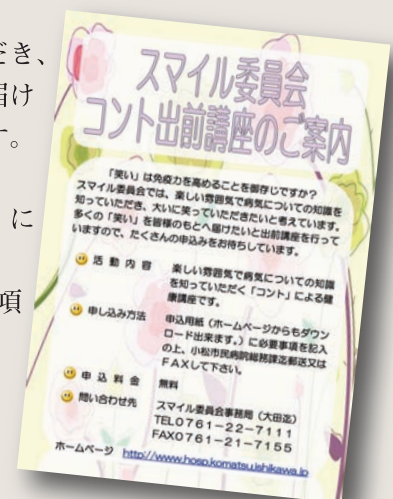
活動内容：楽しい雰囲気の中で病気についての知識を知っていただく「コント」による健康講座です。

申込方法：申込用紙(ホームページからもダウンロード出来ます。)に必要事項を記入の上、小松市民病院総務課迄郵送又はFAXして下さい。
ホームページアドレス <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>

申込料金：無料

問い合わせ先：スマイル委員会事務局 (大田迄)

TEL 0761-22-7111 FAX 0761-21-7155



4才くらいまでのお子さんの

〈のびのび相談〉のご案内

子どもたちの発達はだれも同じではありません
ひとりの子の中でも得意なところや苦手なところがあります

そのなかで少しでも早くからまわりとのかかわり方を学ぶことが、
発達のうえで大切な子のいることが分かっています

視線を合わせないことがおおい
名前を呼んでもふり向かない
ほしいものや興味があるものを指ささない
お母さんのまねをしない

ほかの子とうまく遊べない
ことばが遅い
手のひらひらしたり、くるくる回したり同じ動作をくりかえす
わが子にうまく関われないことが気になる



もしこんな事が気になったら

まずは〈のびのび相談〉にお気軽に来てみてください

小松市民病院の小児科の先生やスタッフが、お子さんの発達の状態や支援の必要性を、ご家庭
や保育所とかかわりながらお伝えしていきます。

もし、相談してみようと思われたら園の方に伝えて下さい。園から予約してもらいます。

毎月第1日曜日 9:30~11:00

場所：小松市民病院内・こまつ病児保育ルーム〈のびのび相談〉

*園からの予約が必要です。

お問い合わせは小松市民病院小児科外来まで

電話番号 0761-22-7111

*原則としてご両親おそろいでおいで下さい。



編・集・後・記

「政権交代」による新たな取り組みとして行われた「事業仕分け」が終了しました。病院関係としては、診療報酬の配分について「見直し」との評価が下されました。「見直し」により、勤務医対策が十分に行われ、当院の医師が働きやすく、働きがいのある職場になればいいと思います。



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60

TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155

URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>

E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp